

## 6/1 – Lecture 1.

### 「ライ・レ・ローズ、百周年記念のバラ園を管理する」

講師：マルク・スタチェウスキ氏

ヴァル・ド・マルヌバラ園のバラコレクション保存担当、緑地環境保存部長、  
および顧問

ライ・バラ園の持ち主であるジュール・グラヴローと庭師（景観デザイナー）エドゥアール・アンドレにより 1899 年に創設された、ヴァル・ド・マルヌ県ライ・レ・ローズは、創設百年を超えるバラ園である。ヨーロッパ、おそらくは世界でも最古のバラ園だと思われる。というのは、これ以前にバラ愛好家たちが既にたくさんのバラを収集してはいても、花の中の女王であるバラのために特別に用意された最初のバラ園はこのバラ園だからである。この存在は、専門家向けの庭が楽しむための庭ともなり得ることを示したという点で、庭園史において重要なステップである。ほかの多くの歴史ある庭園と同様にヴァル・ド・マルヌ県バラ園は文化的かつ永続的な拠りどころとして、同じ一定の条件のまま変わらずに守られていくべきである。とはいえ、以下のような特殊な状況が技術的な問題を引き起こすかもしれないが。

- バラだけを植える単一栽培により、土壌が容赦なくやせていく
- 密集させないように誘引と剪定が重要である（誘引とは、ツルや莖を支柱に結び付け、成長の方向や姿のバランスなどを調節すること）
- 特に古い品種のいくつかは株が弱るので、用心して定期的に予備の株を作らなければならない
- 『ゼロ・ファイト』（無農薬）の方針は、品種保存を目的とする場合は実践が難しい

バラ園の公開にあたってヴァル・ド・マルヌ県はこれらの問題を検討し、この驚くべき庭園の保全に必要な手法について説明する。